

# アディダス・カップ2019

## 第30回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 見所

2019年11月23日(土) 夜 後楽園ホール 主催 日本テコンドー協会

### A級蹴武型・男女混合試合(選抜6名)

#### 史上4人目の蹴武型王者は誰か?!

2大会連続A級蹴武型2位の**森 慎治**(福岡筑紫野跆拳道クラブ) **優勢**

蹴武の型は、日本跆拳道の魂。

本大会の表看板種目がA級男子無差別級だとすれば、裏看板種目はA級蹴武型である。  
毎年、ハイレベルな少数激戦である。

A級蹴武型は推薦出場はない。

前年度、全日本大会優勝～3位入賞者および本年度予選会での優勝者のみが参加を許される狭き門。  
全日本F T大会A級蹴武型3連覇を達成した福島良菜(福岡筑紫野跆拳道クラブ)が欠場。

(本人は参加希望であったが、河会長が難関校・九州大学工学部受験に専念するよう指導)  
誰が勝っても初優勝となる。

本種目の選抜者は6名。男女混合試合となって以来、初の男性のみの戦いとなる。

|                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 森 慎治(福岡筑紫野跆拳道クラブ)   | 西谷信一郎(東京大森跆拳道クラブ) |
| 青木隼人(東京江東跆拳道クラブ)    | 相良典隆(鹿児島曾於跆拳道クラブ) |
| 片川拓真(横浜市立大学体育会跆拳道部) | 谷本翔平(愛媛松山跆拳道クラブ)  |

9月以降の予選会での仕上がり状況を見ると、

森 慎治(福岡筑紫野跆拳道クラブ)が優勢である。

森は若干16歳の高校1年生。

だが、小学校1年生から入門して今日まで精進し、全日本F T大会の常連、「若きベテラン」。

A級蹴武型において2大会連続2位の実績を残す期待の選手である。

他を寄せ付けない蹴美な飛び蹴りの演武は、優勝候補筆頭といえる。

対抗は、片川拓真(横浜市立大学体育会跆拳道部)。

最近の学生テコンドー大会での仕上がり(A級優勝)状況も申し分ない。

蹴り、突き、防御、そしてその3動作を結ぶ呼吸等、バランスが良い。

しかし、経験不足は否めない。

A級蹴武型出場選手は、経験豊富なベテラン選手の宝庫。僅かなミスが勝敗を左右する。

西谷、相良、青木、谷口も、優勝をねらえる実力がある。

史上、4人目のA級蹴武型王者の栄冠が誰に輝くか! 注目の一戦である。



3連覇達成の団体型 飛び蹴りを決める森



**西谷信一郎**

今まで優勝すると言って、心の中では恐れていました。今年は恐れませんが、予選を勝ち抜きリングに立ち日本一の蹴武の型を見せます。 宜しく願い致します。



**相良典隆**

記念すべき第30回大会に、蹴武型A級選手として出場できることを誇りに思います。

今年も台風や大雨などの自然災害が、大きな被害をもたらし、いまだ多くの方々が苦しい生活を余儀なくされています。そのような中で、テコンドーができることを当たり前と思わず、周囲の支えに感謝しながら全力を尽くします。



谷本翔平

今年度より新社会人としての生活が始まり、学生の頃ほどの練習時間がとれない中でしたが、全日本大会への出場することができ、大変嬉しく思っております。全日本大会では、自分の納得できる闘いができるよう、全力を尽くします。